

被災の傷 自らの言葉で

石巻市出身の佐藤そのみさん(24)＝東京都＝が東日本大震災の経験に基づいた映画を製作し、市内で初の上映が3月に行われた。津波で児童や教職員計84人が死亡、行方不明となった石巻市大川小で、当時6年だった妹を亡くした佐藤さん。「過去を一度形にすることが必要だった。あの日のことを今も言葉にできない人に、映画が届くといい」と願う。



石巻・大川小で妹失った佐藤さん

作品は劇映画「春をかさねて」(2019年、45分)と、ドキュメンタリー「あなたの瞳に話せたら」(19年、29分)。監督はいずれも佐藤さんが務めた。2本とも昨年春に卒業した日大

の学生に恋心を抱く。祐未はれいに思わず嫌みを口にしてしまう。だが、れいも心に傷を負っていた。震災で傷ついた少女の心と友情を描いた。同市出身の俳優芝原弘弘さん＝仙台市＝や市民らが出演した。「あなたの瞳」には、犠牲となった家族や友人宛ての手紙の読み手として、妹みずほさん＝当時(12)＝を亡くした佐藤さんをはじめ、同じような立場にある子らにカメラを向けた。同年代の遺族の心情を等身大で映し出し、昨年「東京ドキュメンタリー映画祭2020」で準グランプリと観客賞を受賞した。もともと絵本や小説の創作が好きだ



上映会で撮影の思いを語る佐藤さん＝3月21日、石巻市の旧観慶丸商店

映画2本製作 地元で上映

った。大川小6年の時、「自然豊かな大川で映画を作りたい」と夢を抱いた。校舎解体の声が上がった際は卒業生仲間と共に保存を訴えた。「大川は映画にされるべき場所です。本当に好きな所」と話す。

「この映画を作らないと人生が前に進まないと思った」。大学で映画製作者として大川小と向き合った。「被災者として取材され描かれてきたが、描かれるのでなく、描きたかった」と無我夢中で取り組んだ。

昨年、卒業に合わせ石巻での上映を計画したが、新型コロナウイルス禍で延期に。震災10年の今年、市中心的旧観慶丸商店で1年遅れの上映会を実現させた。計2回約60人が鑑賞した。「一生忘れられない時間になった。映画を通して、震災を言葉にできる人が増えるとうれしい」と感慨深げに話す。

「震災から時間が止まっていた。この10年の答えが見つかるのはこれから」と佐藤さん。社会について広く学びたくて、さまざまな業種を対象に就職活動中だ。英語や福祉などにも興味がある。自分の心の声に向き合いながら、映画の完成を一つの節目に新たな一歩を踏み出す。